

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告(条約第21条(3))

to the skin surface side sheet side thereof, is provided with a bonded region (84) bonded to the skin surface side sheet, and a non-bonded region (85) which is not bonded to the skin surface side sheet and which extends to the front side from the bonded region. A pocket opening toward the front side is formed by means of a space (AS) sandwiched between the non-bonded region of the waistband and the skin surface side sheet. In a waist region (R14) positioned further toward the rear than a latch disposition region (R13) extending in the width direction from a latching portion of the fastening tape, a rear edge (80F) of the waistband is disposed further toward the rear than a center (R14CL), in the front-rear direction, of the waist region.

(57) 要約: ウエストバンドによるポケットを適切に形成でき、後漏れの発生を抑制できる使い捨ておむつを提供する。使い捨ておむつ(10)は、吸収コア(31)と、吸収コアよりも肌対向面側に位置する肌面側シート(20)と、後胴回り域(S2)において、肌面側シートよりも肌対向面側に位置し、幅方向に伸縮するウエストバンド(80)と、ファスニングテープ(90)と、を有する。ウエストバンドにおいて最も肌面側シート側に位置する対向部(83)には、肌面側シートに接合された接合領域(84)と、接合領域から前側に延出し、肌面側シートに接合されていない非接合領域(85)と、が設けられている。ウエストバンドの非接合領域と肌面側シートとによって挟まれた空間(AS)によって、前側に向かって開口するポケットを形成している。ウエストバンドの後端縁(80F)は、ファスニングテープの係止部から幅方向に延びる係止配置領域(R13)よりも後側に位置するウエスト領域(R14)において、ウエスト領域の前後方向の中心(R14CL)よりも後側に配置されている。

明 細 書

発明の名称： 使い捨ておむつ

技術分野

[0001] 本発明は、ウエストバンドを有する使い捨ておむつに関する。

背景技術

[0002] 後胴回り域において肌面側シートの肌対向面側にウエストバンドを配置した使い捨ておむつが知られている（例えば、特許文献1参照）。ウエストバンドにおいて最も肌面側シート側に位置する対向部には、肌面側シートに接合された接合領域が設けられている。ウエストバンドは、接合領域の後端縁において幅方向に延びる折り目を基点に肌面側シートから離れる側に折り返されている。折り返されたウエストバンドは、弾性部材によって収縮することによってウエストバンドの接合領域及び肌面側シートから浮き上がる。ウエストバンドの折り返された領域と接合領域によって挟まれた空間によって、前側に向かって開口するポケットを形成している。当該ポケットによってウエスト開口側に移動する排泄物を収容する。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：米国特許公開公報2018／71155号

発明の概要

[0004] 特許文献1の使い捨ておむつにおいて後漏れの発生を更に抑制するために、ウエストバンド全体をウエスト開口側に近づけて配置することが考えられる。使い捨ておむつの製造方法の一例では、複数のおむつが前後方向に連続した状態で製造し、おむつの前後方向の端縁を切断して、個々のおむつを得ることが行われる。このように、おむつの前後方向の端縁を切断する製造方法において、ウエストバンドをウエスト開口に近接して配置すると、おむつの製造過程の誤差によってウエストバンドの折り目が切断され、ポケットとしての機能を発揮できないおそれがある。

[0005] よって、ウエストバンドによるポケットを適切に形成でき、後漏れの発生を抑制できる使い捨ておむつが望まれる。

[0006] 一態様に係る使い捨ておむつは、互いに直交する前後方向及び幅方向と、前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアよりも肌対向面側に位置する肌面側シートと、前記後胴回り域において前記肌面側シートの肌対向面側に配置されたウエストバンドと、前記後胴回り域において配置されたファスニングテープと、を有する使い捨ておむつであって、前記ウエストバンドにおいて最も前記肌面側シート側に位置する対向部には、前記肌面側シートに接合された接合領域と、前記接合領域から前側に延出し、前記肌面側シートに接合されていない非接合領域と、が設けられており、前記ウエストバンドの前記非接合領域と前記肌面側シートとによって挟まれた空間によって、前側に向かって開口するポケットを形成しており、前記ウエストバンドの後端縁は、前記ファスニングテープの係止部から前記幅方向に延びる係止配置領域よりも後側に位置するウエスト領域において、前記ウエスト領域の前後方向の中心よりも後側に配置されている。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]図1は、第1実施形態に係る使い捨ておむつを肌対向面側から見た模式平面図である。

[図2]図2は、図1に示す2A-2A線に沿った模式断面図である。

[図3]図3は、図1に示す3A-3A線に沿った模式断面図である。

[図4]図4は、伸長状態における図1に示す4A-4A線に沿った模式断面図である。

[図5]図5は、自然状態における図1に示す4A-4A線に沿った模式断面図である。

[図6]図6は、図5を基準とした断面における着用状態を模式的に示した図である。

[図7]図7は、第2実施形態に係る使い捨ておむつの模式断面図である。

[0008] (1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

一態様に係る使い捨ておむつは、互いに直交する前後方向及び幅方向と、前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記吸収コアよりも肌対向面側に位置する肌面側シートと、前記後胴回り域において前記肌面側シートの肌対向面側に配置されたウエストバンドと、前記後胴回り域において配置されたファスニングテープと、を有する使い捨ておむつであって、前記ウエストバンドにおいて最も前記肌面側シート側に位置する対向部には、前記肌面側シートに接合された接合領域と、前記接合領域から前側に延出し、前記肌面側シートに接合されていない非接合領域と、が設けられており、前記ウエストバンドの前記非接合領域と前記肌面側シートとによって挟まれた空間によって、前側に向かって開口するポケットを形成しており、前記ウエストバンドの後端縁は、前記ファスニングテープの係止部から前記幅方向に延びる係止配置領域よりも後側に位置するウエスト領域において、前記ウエスト領域の前後方向の中心よりも後側に配置されている。

[0009] 本態様によれば、ウエストバンドの後端縁は、ウエスト領域の前後方向の中心よりも後側に配置されているため、ウエスト領域の剛性を確保し易い。ウエスト領域がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。また、ウエストバンドの対向部の非接合領域と肌面側シートとによって挟まれた空間によって、前側に向かって開口するポケットを形成している。非接合領域よりもウエスト開口側には、接合領域が設けられている。よって、製造誤差などによって、ウエストバンドの一部（例えば、後端縁）が誤って切断されても、非接合領域が接合領域よりも前側に設けられているため、ポケットとしての機能を維持し易い。よって、ウエストバンドによるポケットを適切に形成でき、後漏れの発生を抑制することができる。

[0010] 好ましい一態様によれば、前記ウエストバンドの後端縁は、前記ファスニ

ングテープから前記幅方向に延びるテープ配置領域よりも後側に位置するウエスト開口領域において、前記ウエスト開口領域の前後方向の中心よりも後側に配置されてよい。

[0011] 本態様によれば、ウエスト開口領域の前後方向における半分以上の長さに亘って剛性を高め、ウエスト開口領域の剛性を確保し易くなる。ウエスト開口領域がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。

[0012] 好ましい一態様によれば、ウエストバンドは、前記非接合領域の前端縁において幅方向に延びる折り目を基点に前記肌面側シートから離れる側に折り畳まれた折り返し部を有してよい。

[0013] 本態様によれば、折り返し部は、肌面側シートから離れる側に折り畳まれており、身体に接する領域となる。身体に接する折り返し部が設けられていることにより、ポケットによる収容空間をより確保し易くなる。

[0014] 好ましい一態様によれば、前記非接合領域は、前記接合領域の前端縁から前記折り目まで設けられており、前記折り返し部の前記前後方向の長さは、前記非接合領域の前後方向の長さよりも長くてよい。

[0015] 本態様によれば、身体に接する折り返し部の前後方向の長さが、ポケットの収容空間を構成する非接合領域の長さよりも長い。ウエストバンドが身体に接する面積を広く確保し、ウエストバンドの形状の安定性を向上できる。

[0016] 好ましい一態様によれば、折り返し部の後端縁は、前記係止配置領域よりも後側に位置してよい。

[0017] 本態様によれば、係止配置領域は、着用された状態で身体に密着し易い。当該身体に密着する係止配置領域よりもウエスト開口側に折り返し部が配置される。使用者は、ポケットがよりウエスト開口側に配置されることを把握でき、後漏れに対する安心感を得ることができる。

[0018] 好ましい一態様によれば、折り返し部の後端縁は、前記接合領域の後端縁よりも前側に位置してよい。

[0019] 本態様によれば、折り返し部の後端縁が接合領域の後端縁よりも前側に位置するため、製造時に折り返し部がずれた場合であっても、意図せずに折り

返し部が切断されることを抑制できる。

[0020] 好ましい一態様によれば、折り返し部の収縮力は、前記非接合領域の収縮力よりも高くてもよい。

[0021] 本態様によれば、折り返し部の伸縮応力が比較的高いため、ウエストバンドの身体に対する密着性を確保できる。また、非接合領域が設けられた領域の応力が比較的低いため、非接合領域の応力が高いことによってポケットが身体から浮き上がりすぎる不具合を抑制し、身体とポケットの隙間が発生することを抑制できる。

[0022] 好ましい一態様によれば、前記非接合領域の後端縁は、前記係止配置領域の前後方向の中心よりも後側に位置してよい。

[0023] 本態様によれば、非接合領域の後端縁は、対向部の非接合領域と肌面側シートとによって挟まれたポケットの後端縁を構成する。非接合領域の前後方向の長さを確保し、非接合領域によるポケットの収容空間を広く設けることができる。

[0024] 好ましい一態様によれば、接合領域の前端縁は、前記係止配置領域の後端縁よりも前側に位置してよい。

[0025] 本態様によれば、接合領域の前後方向の長さを確保し、ウエストバンドが配置されている領域の剛性を高め、当該ウエスト領域の剛性を高めることができる。よって、ウエスト領域がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れをより抑制できる。

[0026] 好ましい一態様によれば、接合領域の後端縁は、前記使い捨ておむつの後端縁に到達してよい。

[0027] 本態様によれば、使い捨ておむつの後端縁の剛性を高めることができ、ウエスト領域の剛性をより確保し易い。ウエスト開口領域がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。

[0028] 好ましい一態様によれば、吸収コアよりも肌対向面側に位置する液不透過性の裏面シートを備え、前記使い捨ておむつの平面視において前記裏面シートの少なくとも一部は、前記ウエストバンドの接合領域に重なってよい。

[0029] 裏面シートの少なくとも一部がウエストバンドの接合領域に重なっていることにより、裏面シートによってウエストバンドの収容空間から使い捨ておむつの非肌面側への体液の漏れを抑制することができる。また、接合領域が設けられた領域の剛性を裏面シートによって高めることができ、ウエストバンドの起立部が接合領域に対してより立ち上がり易くなり、ウエストバンドによるポケットをより形成し易くなる。

[0030] (2) 使い捨ておむつの全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る使い捨ておむつについて説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0031] 使い捨ておむつは、テープ型の使い捨ておむつである。図1は、第1実施形態に係る使い捨ておむつ10の肌対向面側から見た模式平面図である。図2は、図1に示す使い捨ておむつの2A-2A断面に沿った模式断面図である。図3は、図1に示す使い捨ておむつの3A-3A断面に沿った模式断面図である。図1から図3は、伸長状態の使い捨ておむつを示している。なお、本発明における伸長状態とは、使い捨ておむつ10を皺が形成されない状態まで伸長させた状態である。また、本発明における自然状態とは、パッケージに収容されている使い捨ておむつ10にあっては、パッケージから使い捨ておむつ10を取り出し、20℃±2℃、相対湿度60%±5%RHの雰囲気下において24時間放置した状態である。図4は、伸長状態における図1に示す4A-4A線に沿った模式断面図である。図5は、自然状態における図1に示す4A-4A線に沿った模式断面図である。図2から図5に示す模式断面図では、説明の便宜上、各部材を厚さ方向Tにおいて離間して示しているが、実際の製品においては厚さ方向Tに接している。図5に示す断面を基準とした着用状態を示す図である。図6に示すBLは、着用者の身体の

ラインを示している。

[0032] 使い捨ておむつ 10 は、互いに直交する前後方向 L 及び幅方向 W を有する。前後方向 L は、身体前側と身体後側とに延びる方向によって規定される。言い換えると、前後方向 L は、展開された使い捨ておむつ 10 において前後に延びる方向である。また、使い捨ておむつ 10 は、前後方向 L と幅方向 W の両方の直交する厚さ方向 T を有する。厚さ方向 T は、着用者側に向かう肌対向面側 T1 と、肌対向面側と反対側の非肌対向面側 T2 と、に延びる。

[0033] 使い捨ておむつ 10 は、前胴回り域 S1 と、後胴回り域 S2 と、股下域 S3 と、を有する。前胴回り域 S1 は、着用者の前胴回り（腹部）に対向する領域である。後胴回り域 S2 は、着用者の後胴回り（背部）に対向する領域であり、装着時に身体（臀部）が載せられる領域を含む。股下域 S3 は、着用者の股下に位置し、前胴回り域 S1 と後胴回り域 S2 との間に配置された領域である。股下域 S3 は、着用者の脚回りに配置される脚回り開口部 65 が設けられた領域である。脚回り開口部 65 は、使い捨ておむつの外側縁から幅方向の内側に凹む部分である。

[0034] 使い捨ておむつ 10 は、吸収材料を含む吸収コア 31 を含む。吸収コア 31 は、粉碎パルプもしくは高吸収性ポリマー（SAP）、又はこれらの混合物等の吸収材料を含む。吸収コア 31 は、図示しないコアラップによって覆われてよい。吸収コア 31 とコアラップによって吸収体が構成されてよい。コアラップは、テッシュ又は SMS 不織布によって構成され、吸収コア 31 の肌対向面側 T1 と吸収コア 31 の非肌対向面側 T2 に配置されてよい。

[0035] 図 2 及び図 3 に示すように、使い捨ておむつ 10 は、吸収コア 31 よりも肌対向面側 T1 に位置する肌面側シート 20 を有する。肌面側シート 20 は、吸収コア 31 を覆い、かつ使い捨ておむつ 10 の全体に亘って配置されている。本実施形態の肌面側シート 20 は、表面シート 21 と一対のサイドシート 22 を含む。なお、コアラップを有する使い捨ておむつにあっては、肌面側シート 20 は、コアラップよりも肌対向面側 T1 に位置するシートである。表面シート 21 は、吸収コア 31 の幅方向 W の中心を跨いで配置されて

よい。サイドシート22は、表面シート21の両外側部を覆うように配置されてよい。表面シート21及びサイドシート22は、例えば不織布や開孔プラスチックフィルムのような透液性シートによって構成されていてよい。

[0036] サイドシート22の内側部は、折り返されて重なってよい。重なったサイドシート22間には、前後方向Lに伸縮する防漏弾性部材61が設けられてよい。防漏弾性部材61は、前後方向Lに伸縮する糸ゴムによって構成されてよい。サイドシート22は、防漏弾性部材61の収縮によって肌対向面側T1に起立する。サイドシート22及び防漏弾性部材61は、肌対向面側T1に起立する収縮部63を構成する。防漏ギャザー60は、収縮部63と、収縮部63よりも幅方向の外側において収縮部の起立支点となる防漏基端縁64と、を有する。防漏基端縁64は、収縮部63よりも幅方向の外側においてサイドシートと表面シートが接合された領域の内側縁である。収縮部63は、サイドシート22が表面シート21に接合されてなく、防漏弾性部材61によって収縮可能な部分であり、非伸長状態の防漏弾性部材61が配置された部分を含まない。収縮部63の前後方向の範囲を図1に示す。

[0037] ここで、本発明における外側部とは、幅方向Wにおける外側の縁を含む幅方向Wに一定の範囲を占める部分であり、外側縁とは、幅方向Wにおける外側の縁である。また、内側部とは、幅方向Wにおける内側の縁を含む幅方向Wに一定の範囲を占める部分であり、内側縁とは、幅方向Wにおける内側の縁である。

[0038] 使い捨ておむつ10は、吸収コア31よりも肌対向面側T1に位置する非肌面側シート25を有する。非肌面側シート25は、吸収コア31を覆い、かつ使い捨ておむつの全体に亘って配置されている。本実施形態の非肌面側シート25は、裏面シート23と外装シート24を含む。なお、コアラップを有する使い捨ておむつにあっては、非肌面側シート25は、コアラップよりも非肌対向面側T2に位置するシートである。裏面シート23は、液不透過性のシートであり、ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、спанボン、又はспанレー

ス等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシートなどを用いることができる。外装シート24は、裏面シート23の非肌対向面側T2に設けられてよい。外装シート24は、液透過性の不織布によって構成されてよい。裏面シート23の幅方向Wの長さは、外装シート24の幅方向Wの長さよりも短く、裏面シート23の前後方向Lの長さは、外装シート24の前後方向Lの長さよりも短くてよい。

[0039] 後胴回り域S2には、ファスニングテープ90が設けられている。ファスニングテープ90は、ベース部92と係止部93を有する。ベース部92の少なくとも一部は、肌面側シート20と非肌面側シート25の間に接合され、かつ肌面側シート20と非肌面側シート25から幅方向Wの外側に延出する。係止部93は、ベース部92上に設けられ、ターゲット部95（図1参照）に着脱可能に止着される。ファスニングテープ90は、後胴回り域S2において幅方向Wに沿って延び、ターゲット部95に止着されることにより、使い捨ておむつ10を着用者の身体に保持する。ターゲット部95は、前胴回り域S1に配置されており、ファスニングテープ90がそれぞれ止着するように構成されている。

[0040] 使い捨ておむつ10は、後胴回り域S2において肌面側シート20の肌対向面側T1に配置されたウエストバンド80を有する。ウエストバンド80は、着用時に肌面側シート20から浮き上がり、前側に向かって開口するポケットを形成する。当該ポケットによってウエスト開口66側に移動する排泄物を収容する。ウエストバンド80の構成については、後述にて詳細に説明する。ウエスト開口66は、使い捨ておむつの後端縁10Rと前端縁10Fによって構成され、ファスニングテープ90がターゲット部95に止着した状態で腰回りを囲む部分である。

[0041] 使い捨ておむつ10は、ファスニングテープ90から幅方向に延びるテープ配置領域R11、テープ配置領域R11よりも後側に位置するウエスト開口領域R12、ファスニングテープの係止部93から幅方向に延びる係止配置領域R13、及び係止配置領域R13よりも後側に位置するウエスト領域

R 1 4 を有する。各領域 R 1 1 ~ R 1 4 の前後方向 L の範囲を図 1 に示す。テープ配置領域 R 1 1 は、前後方向 L において、ファスニングテープの前端縁 9 0 F と後端縁 9 0 R の間の領域である。よって、テープ配置領域 R 1 1 の前端縁は、ファスニングテープ 9 0 の前端縁 9 0 F に一致し、テープ配置領域 R 1 1 の後端縁は、ファスニングテープ 9 0 の後端縁 9 0 R に一致する。ウエスト開口領域 R 1 2 は、前後方向 L において、ファスニングテープ 9 0 の後端縁 9 0 R と使い捨ておむつ 1 0 の後端縁 1 0 R の間の領域である。よって、ウエスト開口領域 R 1 2 の前端縁は、ファスニングテープの後端縁 9 0 R に一致し、ウエスト開口領域 R 1 2 の後端縁は、使い捨ておむつ 1 0 の後端縁 1 0 R に一致する。係止配置領域 R 1 3 は、前後方向 L において、係止部 9 3 の前端縁 9 3 F と後端縁 9 3 R の間の領域である。よって、係止配置領域 R 1 3 の前端縁は、係止部 9 3 の前端縁 9 3 F に一致し、係止配置領域 R 1 3 の後端縁は、係止部 9 3 の後端縁 9 3 R に一致する。ウエスト領域 R 1 4 は、前後方向 L において、係止部 9 3 の後端縁 9 3 R と使い捨ておむつ 1 0 の後端縁 1 0 R の間の領域である。よって、ウエスト領域 R 1 4 の前端縁は、係止部 9 3 の後端縁 9 3 R に一致し、ウエスト領域 R 1 4 の後端縁は、使い捨ておむつ 1 0 の後端縁 1 0 R に一致する。

[0042] サイドシート 2 2 と裏面シート 2 3 の間、又はサイドシート 2 2 と外装シート 2 4 の間には、前後方向 L に延びる脚回り弾性部材 4 2 が設けられてよい。脚回り弾性部材 4 2 は、前後方向 L に伸縮する帯状の伸縮シートによって構成されてよい。脚回り弾性部材 4 2 の収縮によって、着用時に使い捨ておむつ 1 0 が脚回りにフィットする。脚回り弾性部材 4 2 は、吸収コア 3 1 よりも幅方向 W の外側において、少なくとも股下域 S 3 において脚回り開口部 6 5 に沿って配置されている。脚回り弾性部材 4 2 は、外装シート 2 4 とサイドシート 2 2 の間、及び裏面シート 2 3 とサイドシート 2 2 の間に配置されている。

[0043] サイドシート 2 2 と裏面シート 2 3 の間、及びサイドシート 2 2 と外装シート 2 4 の間には、幅方向 W に延びる腰回り弾性部材 4 5 が設けられてよい

。腰回り弾性部材４５は、幅方向Ｗに伸縮する略矩形の伸縮シートによって構成されてよい。腰回り弾性部材４５は、肌面側シート２０と非肌面側シート２５の間に接合されている。より詳細には、図４に示すように、腰回り弾性部材４５は、幅方向Ｗに伸長した状態で、吸収コア３１と非肌面側シート２５の間、又は肌面側シート２０と非肌面側シート２５の間に接合されている。腰回り弾性部材４５の収縮によって、着用時に使い捨ておむつ１０が腰回りにフィットする。腰回り弾性部材４５は、少なくとも後胴回り域Ｓ２に配置されている。腰回り弾性部材４５は、係止配置領域Ｒ１３とウエスト領域Ｒ１４に跨って配置されている。腰回り弾性部材４５の後端縁４５Ｒは、使い捨ておむつ１０の後端縁１０Ｒよりも前側かつテープ配置領域Ｒ１１よりも後側に位置する。腰回り弾性部材４５の前端縁４５Ｆは、テープ配置領域Ｒ１１よりも前側かつ吸収コア３１の後端縁３１Ｒよりも前側に位置する。腰回り弾性部材４５は、肌面側シート２０及び非肌面側シート２５のいずれかと重なって配置されており、本発明の補強シートを構成する。補強シートは、肌面側シート２０及び非肌面側シート２５と別体のシートであり、肌面側シート２０及び非肌面側シート２５が配置された領域を補強する。なお、本実施の形態において２つの部材が重なる状態とは、２つの部材が当接して重なった状態のみならず、２つの部材の間に他の部材が配置され、２つの部材が間接的に重なった状態を含むものである。

[0044] （３）ウエストバンドの構成

次いで、ウエストバンド８０の構成について詳細に説明する。図５に示すように、ウエストバンド８０は、複数のシートが積層されたシート層８１と、シート層８１に接合されたバンド弾性部材８２と、を有する。本実施形態のウエストバンド８０のシート層８１は、第１不織布層８１１と、第２不織布層８１２と、第１不織布層８１１と第２不織布層８１２の間に配置されたフィルム層８１３と、を含む。第１不織布層８１１と第２不織布層８１２は、同一の不織布によって構成され、ウエストバンド８０の折り返し部８６の頂点において折り返されている。第１不織布層８１１は、ウエストバンド８

0において最も肌面側シート20側に位置している。

[0045] バンド弾性部材82は、糸状又は帯状の弾性部材によって構成され、幅方向Wに伸長した状態で、シート層81に固定されている。本実施形態のバンド弾性部材82は、第1不織布層811とフィルム層813との間に固定されている。バンド弾性部材82は、前後方向Lに間隔を空けて複数配置されている。バンド弾性部材82は、後述する非接合部85と折り返し部86において、それぞれ複数配置されている。

[0046] ウエストバンド80は、後胴回り域S2においてウエスト開口66の近傍に配置されてよい。ウエストバンド80の外側縁80Eは、吸収コア31の外側縁31Eよりも幅方向の外側に位置してよく、ファスニングテープ90の内側縁よりも幅方向の内側に位置してもよい。ウエストバンド80の前端縁80Fは、ファスニングテープ90の前端縁90Fよりも後側に位置してよい。ウエストバンド80の前端縁80Fは、ファスニングテープ90の後端縁90Rよりも前側に位置してよい。ファスニングテープ90とウエストバンド80が幅方向Wにおいて重なるため、ファスニングテープ90とウエストバンド80の連動性を高めることができる。ウエストバンド80の前端縁80Fは、ファスニングテープ90の前後方向Lの中心よりも後側に配置されてよい。ウエストバンド80をウエスト開口側に設け、ウエストバンドの收容空間ASを広く設けることができる。

[0047] 使い捨ておむつ10は、前後方向Lにおけるファスニングテープ90の前端縁90Fとウエストバンド80の前端縁80Fとの間、かつ、幅方向Wにおけるファスニングテープの内側縁と吸収コア31の外側縁の間である離間領域R15を有する。離間領域R15は、吸収コア31に対する幅方向の両側にそれぞれ位置してよい。一方の離間領域R15と他方の離間領域R15は、幅方向Wに間隔を空けて配置されてよい。図1において、離間領域R15に斜線を付して示す。

[0048] ウエストバンド80は、肌面側シート20に対して起立可能に構成された起立部と、起立部の起立支点となる基端縁と、を有する。基端縁は、吸収コ

ア 3 1 よりも幅方向の外側に位置する第 1 基端縁と、起立部よりもウエスト開口 6 6 側に位置する第 2 基端縁と、を有する。

[0049] ウエストバンド 8 0 は、幅方向 W に伸縮可能に構成されている。ウエストバンド 8 0 は、バンド弾性部材 8 2 によって幅方向に伸縮するように構成されていてもよいし、シート層が伸縮性を有することによって幅方向に伸縮するように構成されていてもよい。ウエストバンド 8 0 は、少なくとも起立部が収縮可能に構成されていればよく、起立部、第 1 基端縁及び第 2 基端縁の全体が収縮可能に構成されていてもよい。

[0050] ウエストバンド 8 0 は、ウエストバンド 8 0 において最も肌面側シート 2 0 側に位置する対向部 8 3 を有する。対向部 8 3 は、肌面側シート 2 0 に当接可能な部分であり、最も肌面側シート 2 0 側に位置するシート層 8 1 を含んだ部分であって、折り目を基点に折り返されていない部分によって構成されている。本実施形態の対向部 8 3 は、折り目 F L に対して折り返されていない部分であり、折り目 F L よりも肌対向面側かつ後側に位置する部分によって構成されている。図 4 において、対向部 8 3 に斜線を付して示す。対向部 8 3 には、肌面側シート 2 0 に接合された接合部 8 4 と、接合部 8 4 から前側に延出し、肌面側シート 2 0 に接合されていない非接合部 8 5 と、が設けられている。図 4 において、接合部 8 4 の前後方向の長さ X と非接合部 8 5 の前後方向 L の長さ Y を示す。接合部 8 4 は、本発明の接合領域を構成し、非接合部 8 5 は、本発明の非接合領域を構成する。

[0051] 図 5 及び図 6 に示すように、ウエストバンド 8 0 の非接合部 8 5 と肌面側シート 2 0 とによって挟まれた収容空間 A S によって、前側に向かって開口するポケットを形成している。よって、非接合部 8 5 は、本発明の起立部を構成する。起立部の前端縁は、非接合部 8 5 の前端縁 8 5 F であり、起立部の後端縁は、非接合部 8 5 の後端縁 8 5 R である。非接合部 8 5 の前端縁 8 5 F は、伸長状態において、吸収コア 3 1 の後端縁 3 1 R よりも前側に位置してよい。接合部 8 4 は、非接合部 8 5 から後側に延びている。接合部 8 4 の前端縁 8 4 F は、本発明の第 2 基端縁を構成する。接合部 8 4 は、第 2 基

端縁から前後方向に延びている。接合部 84 の後端縁 84 R は、ウエストバンド 80 の後端縁 80 R まで延びてよく、使い捨ておむつ 10 の後端縁 10 R に一致してもよい。接合部 84 の前端縁 84 F は、ポケットの後端縁を構成する。接合部 84 の前端縁 84 F は、伸長状態において、吸収コア 31 の後端縁 31 R よりも後側に位置してよいし、吸収コア 31 の後端縁 31 R と一致していてもよい。なお、本実施形態の使い捨ておむつ 10 は、接合部 84 の後端縁 84 R、対向部 83 の後端縁 83 R、ウエストバンドの後端縁 80 R 及び使い捨ておむつ 10 の後端縁 10 R は、前後方向 L における位置が一致している。

[0052] なお、接合部 84 の後端縁 84 R がウエストバンド 80 の後端縁 80 R よりも前側に位置する構成にあっては、接合部 84 よりも後側に非接合部が設けられてよい。接合部 84 よりも後側に位置する非接合部は、前側に向かって開口してなくポケットを形成しない。そのため、後述する製造工程の誤差によって誤って切断されても、ポケットの形成に影響しない。また、接合部 84 よりも後側に位置する非接合部は、非接合部の後端縁において幅方向に延びる折り目を基点に、肌面側シート 20 から離れる側に折り畳まれていてもよい。

[0053] ウエストバンド 80 は、起立部を構成する非接合部 85 よりも幅方向の外側において、肌面側シート 20 に接合されたサイド接合部 87 を有する。サイド接合部 87 の外側縁 87 E は、ウエストバンド 80 の外側縁 80 E の近傍に配置されてよく、ウエストバンド 80 の外側縁 80 E に到達してよい。サイド接合部 87 の内側縁 87 I は、吸収コア 31 の外側縁 31 E よりも幅方向 W の外側に位置してよく、吸収コア 31 と幅方向 W において離間している。サイド接合部 87 の内側縁 87 I は、本発明の第 1 基端縁を構成する。図 1 において、起立部を構成する非接合部 85、サイド接合部 87、及び接合部 84 に、異なる斜線を付して示す。

[0054] 非接合部 85 は、接合部 84 から前側に延びている。ウエストバンド 80 は、非接合部 85 の前端縁 85 F において幅方向 W に延びる折り目 F L を基

点に折り畳まれた折り返し部 86 を有してよい。非接合部 85 は、接合部 84 の前端縁 84 F から折り目 FL まで設けられている。非接合部 85 の前端縁 85 F は、対向部 83 の前端縁 83 F 及びウエストバンド 80 の前端縁 80 F を構成し、折り目 FL に一致する。非接合部 85 の前後方向 L の長さは、接合部 84 の前端縁 84 F と折り目 FL との距離である。図 6 に示すように、折り返し部 86 は、肌面側シート 20 から離れる側に折り畳まれており、身体に接する領域となる。身体に接する折り返し部 86 が設けられていることにより、ポケットによる収容空間をより確保し易くなる。なお、変形例に係るウエストバンド 80 は、折り返し部 86 を有していなくてもよい。

[0055] 折り返し部 86 は、非接合部 85 の前端縁 85 F から後側に延びる。伸長状態において、折り返し部 86 の後端縁 86 R は、対向部 83 の後端縁 83 R と一致していてもよいし、対向部 83 の後端縁 83 R よりも前側であってもよいし、対向部 83 の後端縁 83 R よりも後側であってもよい。本実施形態では、折り返し部 86 の後端縁 86 R と対向部 83 の後端縁 83 R は、前後方向 L において一致している。なお、折り返し部 86 の後端縁 86 R が対向部 83 の後端縁 83 R よりも前側に位置する構成にあっては、対向部 83 の後端縁 83 R がウエストバンド 80 の後端縁 80 R を構成する。折り返し部 86 の後端縁 86 R が対向部 83 の後端縁 83 R よりも後側に位置する構成にあっては、折り返し部 86 の後端縁 86 R がウエストバンド 80 の後端縁 80 R を構成する。

[0056] 図 2 及び図 3 に示すように、折り返し部 86 の外側部は、ウエストバンドの折り返されていない部分（対向部 83）に対して第 2 接合部 88 を介して接合されている。第 2 接合部 88 は、折り返し部 86 の幅方向の両側部に一対で設けられている。一対の第 2 接合部 88 の間の領域では、折り返し部 86 は、対向部 83 に対して着用者側に起立している。

[0057] 変形例に係るウエストバンドは、折り返し部 86 の後端縁 86 R において幅方向 W に延びる折り目を基点に、肌面側シート 20 から離れる側に折り畳まれていてもよい。折り返し部 86 が更に折り畳まれることにより、ウエス

トバンド８０がより着用者側に起立し、ウエストバンド８０が身体に対してより接しやすくなる。

[0058] ウエストバンド８０の前端縁８０Ｆは、伸長状態において、テープ配置領域Ｒ１１に位置してよいし、係止配置領域Ｒ１３に位置してもよい。すなわち、ウエストバンド８０の前端縁８０Ｆは、ウエスト領域Ｒ１４の前端縁よりも前側に位置してよいし、ウエスト開口領域Ｒ１２の前端縁よりも前側に位置してよい。

[0059] ウエストバンド８０の後端縁８０Ｒは、伸長状態において、ウエスト領域Ｒ１４の前後方向の中心Ｒ１４ＣＬよりも後側に配置されている。ウエスト領域Ｒ１４は、係止配置領域Ｒ１３よりも後側に位置する。係止配置領域Ｒ１３は、着用時に係止部９３がターゲット部９５に止着された状態で、使い捨ておむつ１０を身体に対して保持する領域である。係止配置領域Ｒ１３よりも後側に位置するウエスト領域Ｒ１４には、ファスニングテープ９０等によって着用者の胴回りに保持する力が掛かりにくく、ウエスト領域Ｒ１４は、後胴回り域Ｓ２において比較的変形し易い領域である。ウエスト領域Ｒ１４にウエストバンド８０が配置されることにより、ウエスト領域Ｒ１４の剛性を高めることができる。ウエストバンド８０は、ウエスト領域Ｒ１４の前後方向Ｌの長さの半分以上に配置されている。よって、ウエスト領域Ｒ１４の前後方向Ｌにおける半分以上の長さに亘って剛性を高め、ウエスト領域Ｒ１４の剛性を確保し易くなる。ウエスト領域Ｒ１４がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。

[0060] また、ウエストバンド８０のポケットは、対向部８３の非接合部８５と肌面側シート２０とによって挟まれた収容空間ＡＳによって形成されている。非接合部８５よりもウエスト開口６６側には、接合部８４が設けられている。非接合部８５が接合部８４よりも前側に設けられているため、製造誤差などによりウエストバンド８０の一部（例えば、ウエストバンド８０の後端縁）が誤って切断されても、ポケットが切断され難い。よって、ポケットとしての機能を維持し易く、ウエストバンド８０によるポケットを適切に形成で

き、後漏れの発生を抑制することができる。

[0061] ウエストバンド80の後端縁80Rは、伸長状態において、ウエスト開口領域R12の前後方向Lの中心R12CLよりも後側に配置されてよい。ウエスト開口領域R12は、テープ配置領域R11よりも後側に位置する。テープ配置領域R11は、着用時にファスニングテープ90がターゲット部95に止着された状態で、使い捨ておむつを身体に対して保持する領域である。テープ配置領域R11よりも後側に位置するウエスト開口領域R12には、着用者の胴回りに保持する力がより掛かり難く、ウエスト開口領域R12は、後胴回り域S2においてより変形し易い領域である。加えて、このように構成された使い捨ておむつを寝た状態の着用者に装着する際は、後胴回り域S2を着用者の身体と寝具等の間に差し込むことがある。このとき、ウエスト開口領域R12は、差し込む際の先端に位置しており、めくれたり、たぐれたりし易い領域である。ウエスト開口領域R12にウエストバンド80が配置されることにより、ウエスト開口領域R12の剛性を高めることができる。ウエストバンド80は、ウエスト開口領域R12の前後方向Lの長さの半分以上に配置されている。よって、ウエスト開口領域R12の前後方向Lにおける半分以上の長さに亘って剛性を高め、ウエスト開口領域R12の剛性を確保し易くなる。ウエスト開口領域R12がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。

[0062] 好適には、接合部84の後端縁84Rは、伸長状態において、ウエスト領域R14の前後方向の中心R14CLよりも後側に配置されてよい。接合部84は、肌面側シート20に接合された領域であり、ウエスト領域R14の剛性をより高めることができる。よって、ウエスト領域R14の剛性を高めて後漏れを抑制する効果をより得易くなる。より好適には、接合部84の後端縁84Rは、伸長状態において、ウエスト開口領域R12の前後方向の中心R12CLよりも後側に配置されてよい。ウエスト開口領域R12の剛性を高めて後漏れを抑制する効果をより得易くなる。更に好適には、接合部84の後端縁84Rは、伸長状態において、使い捨ておむつ10の後端縁10

Rに到達してよい。使い捨ておむつ10の後端縁10Rの剛性を高めることができ、ウエスト開口領域R12の剛性をより確保し易い。ウエスト開口領域R12がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れをより抑制することができる。

[0063] 非接合部85の後端縁85Rは、伸長状態において、係止配置領域R13の前後方向Lの中心よりも後側に位置してよい。非接合部85の後端縁85Rは、対向部83の非接合部85と肌面側シート20とによって挟まれたポケットの後端縁を構成する。非接合部85の前後方向Lの長さを確保し、非接合部85によるポケットの収容空間を広く設けることができる。

[0064] 接合部84の前端縁84Fは、伸長状態において、係止配置領域R13の後端縁よりも前側に位置してよい。接合部84の前後方向Lの長さを確保し、ウエストバンド80が配置されている領域の剛性をより高めることができる。よって、ウエスト領域R14等がめくれる不具合をより抑制し、後漏れをより抑制することができる。

[0065] また、補強シートとしての腰回り弾性部材45は、ウエスト領域R14に配置されてよい。より好適には、腰回り弾性部材45は、ウエスト領域R14の前後方向Lの長さの半分以上に配置されてよい。よって、ウエスト領域R14の前後方向Lにおける半分以上の長さに亘って剛性を高め、ウエスト領域R14の剛性を確保し易くなる。ウエスト領域R14がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。また、補強シートとしての腰回り弾性部材45は、ウエスト開口領域R12に配置されてよい。ウエスト開口領域R12がめくれる等の不具合を抑制し、後漏れを抑制することができる。

[0066] 腰回り弾性部材45は、左右のファスニングテープ90を跨がって配置されてよい。ファスニングテープ90と腰回り弾性部材45によって、剛性が高い領域が幅方向に連続して設けられる。よって、後胴回り域におけるウエスト開口近傍のたくれを抑制でき、後胴回り域の漏れをより抑制できる。

[0067] 使い捨ておむつの離間領域R15には、補強シートとしての腰回り弾性部

材45が設けられてよい。ウエストバンド80とファスニングテープ90の幅方向Wの間の領域が腰回り弾性部材45によって補強され、ファスニングテープ90とウエストバンド80が連動し易くなる。よって、ファスニングテープ90が幅方向Wの外側に引っ張られた際に、ウエストバンド80が連動して幅方向Wに引っ張られ、ウエストバンド80が肌面側シート20から浮き上がり易くなる。ウエストバンド80によるポケットを形成し易くなる。

[0068] また、ウエストバンド80の前端縁80Fがファスニングテープ90の前端縁90Fよりウエスト開口66側に位置しており、着用状態では、ウエストバンド80によって臀部を覆い易く、臀部からの排泄物を収容し易い。このとき、ウエストバンド80の前端縁80Fとファスニングテープ90の前端縁90Fの前後方向Lの間の領域は、腰回り弾性部材45によって補強され、変形し難く、皺が生じ難くなる。よって、ウエストバンド80の前端縁80Fとファスニングテープ90の前端縁90Fの前後方向Lの間が変形することに起因してウエストバンド80が股下側に引き下がることを抑制できる。よって、ウエストバンド80によって臀部を覆い続けることができ、後漏れを抑制できる。

[0069] なお、腰回り弾性部材45は、離間領域R15の少なくとも一部に配置されていればよい。好適には、離間領域R15に配置された腰回り弾性部材45の幅方向Wの長さは、離間領域R15の幅方向Wの長さの $1/2$ 以上であってよい。すなわち、各離間領域R15において、離間領域R15の幅方向Wの長さの $1/2$ 以上に亘って腰回り弾性部材45が配置されてよい。また、離間領域R15に配置された腰回り弾性部材45の前後方向Lの長さは、離間領域R15の前後方向Lの長さの $1/2$ 以上であってよい。すなわち、各離間領域R15において、離間領域R15の前後方向Lの長さの $1/2$ 以上に亘って腰回り弾性部材45が配置されてよい。腰回り弾性部材45によって離間領域R15の剛性をより高め、ウエストバンド80が股下側に引き下がることをより抑制でき、かつファスニングテープ90との連動によって

ウエストバンド８０がより立ち上がり易くなる。本実施形態では、腰回り弾性部材４５が離間領域Ｒ１５の全域に配置されており、離間領域Ｒ１５の全域の変形を抑制できる。

[0070] 補強シートとしての腰回り弾性部材４５は、少なくとも一部が幅方向Ｗに伸縮する伸縮性を有してよい。腰回り弾性部材４５が幅方向Ｗに伸縮することにより、装着時におけるファスニングテープ９０とウエストバンド８０の連動性を高めることができる。また、着用者が前屈姿勢の状態で腰回り弾性部材４５が伸びることで後胴回り域Ｓ２が身体に追従し、後胴回り域Ｓ２が身体にフィットし続けることができる。加えて、着用者において離間領域Ｒ１５が当てられる部分は、着用者の臀部の膨らみよりも上側であり、身体が凹んでいる部分である。また、離間領域Ｒ１５は、吸収コア３１が配置されてなく、身体との隙間が生じ易い。この隙間が生じやすい離間領域Ｒ１５の少なくとも一部が腰回り弾性部材４５によって収縮することにより、後胴回り域Ｓ２が身体にフィットし、身体とおむつの隙間が生じることを抑制できる。補強シートは、全域に亘って伸縮性を有していてもよい。なお、変形例において補強シートは、伸縮性を有していなくてもよい。

[0071] 腰回り弾性部材４５は、ウエストバンド８０と厚さ方向Ｔにおいて重なってよい。腰回り弾性部材４５とウエストバンド８０がより連動し易くなり、装着時にファスニングテープ９０が引っ張られた際に、腰回り弾性部材４５を介してウエストバンド８０が連動して引っ張られ、ウエストバンド８０によるポケットをより形成し易くなる。

[0072] なお、腰回り弾性部材４５は、ウエストバンド８０の少なくとも一部と重なっていればよく、好適には、ウエストバンド８０の全域と重なってよい。ウエストバンド８０の幅方向Ｗの全域に亘って幅方向Ｗに引っ張られる力を伝達できる。また、ウエストバンド８０は、厚さ方向Ｔにおいて、肌面側シート２０及び腰回り弾性部材４５に対して着用者側に起立する。ウエストバンド８０の起立時のベース側の剛性が高くなり、ウエストバンド８０がより着用者側に立ち上がり易くなる。

[0073] また、腰回り弾性部材４５は、ファスニングテープ９０と厚さ方向Ｔにおいて重なっていてよい。装着時にファスニングテープ９０を引っ張った際に、幅方向Ｗの外側に引っ張る力が腰回り弾性部材４５にかかり易くなる。腰回り弾性部材４５を介してウエストバンド８０を連動して引っ張ることができ、ウエストバンド８０によるポケットをより形成し易くなる。なお、腰回り弾性部材４５は、ファスニングテープ９０のベース部９２の少なくとも一部と重なっていればよい。

[0074] 腰回り弾性部材４５は、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも前側に延出してよい。ファスニングテープ９０よりも股下側の領域は、着用者の動き等によって力がかかり、変形し易い。ファスニングテープ９０よりも股下域側の領域においても、腰回り弾性部材４５によって剛性を高め、変形を抑制できる。

[0075] ウエストバンド８０と腰回り弾性部材４５が重なる領域の面積は、ファスニングテープ９０と腰回り弾性部材４５が重なる領域の面積よりも大きくてよい。ファスニングテープ９０は、厚さ方向Ｔにおいて腰回り弾性部材４５と同じ層に配置されており、ファスニングテープ９０と腰回り弾性部材４５は、比較的連動し易い。一方、ウエストバンド８０は、肌面側シート２０の肌対向面側に配置されており、厚さ方向Ｔにおいて腰回り弾性部材４５とずれて配置されている。ウエストバンド８０と腰回り弾性部材４５が重なる領域の面積を大きくすることにより、腰回り弾性部材４５とウエストバンド８０の連動性も高めることができる。

[0076] ファスニングテープ９０の後端縁９０Ｒとウエストバンド８０の前端縁８０Ｆとの距離は、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆとウエストバンド８０の前端縁８０Ｆとの距離よりも短くてもよい。すなわち、ウエストバンド８０の前端縁８０Ｆは、ファスニングテープ９０の前後方向Ｌの中心（テープ配置領域の中心）よりも後側に位置する。ウエストバンド８０をウエスト開口６６側の近くに配置することで、臀部をより覆い易くなり、排泄物の漏れを抑制できる。また、離間領域Ｒ１５を腰回り弾性部材４５によって補

強することができるため、ウエストバンド 80 をウエスト開口 66 側の近くに配置しても、ウエストバンド 80 が股下側に引き下がることを抑制し、ウエストバンド 80 によるポケットを臀部の上側に配置し続けることができる。

[0077] 腰回り弾性部材 45 は、厚さ方向 T において脚回り弾性部材 42 に重ならない領域に配置されてよい。脚回り弾性部材 42 の収縮に起因して腰回り弾性部材 45 がたくれることを抑制でき、腰回り弾性部材 45 によって離間領域 R15 の変形を抑制する効果をより得やすい。

[0078] 腰回り弾性部材 45 は、脚回り弾性部材 42 の後端縁 42R から前後方向 L に沿って後側に延びる領域に配置されてよい。脚回り弾性部材 42 の後端縁から前後方向 L に沿って後側に延びる領域は、伸長状態で配置された脚回り弾性部材 42 の後端縁 42R（非伸長状態で配置された脚回り弾性部材を含まない）から前後方向 L に沿って後側に延びる領域である。図 1 に伸長状態で配置された脚回り弾性部材 42 の後端縁 42R を示す。脚回り弾性部材 42 の後端縁から後側に延びる領域は、脚回り弾性部材 42 の収縮によって股下域側に引き下がり易い。脚回り弾性部材 42 の後端縁 42R から前後方向 L に沿って後方に延びる領域は、腰回り弾性部材 45 によって補強され、股下域側へ引き下がり難くなる。ウエストバンド 80 が股下側に引き下がることを抑制できる。よって、ウエストバンド 80 によって臀部を覆い続けることができ、後漏れを抑制できる。

[0079] 腰回り弾性部材 45 は、ウエストバンド 80 の基端縁と厚さ方向 T において重なってよい。本実施形態では、腰回り弾性部材 45 は、第 1 基端縁としてのサイド接合部 87 の内側縁 87I と、第 2 基端縁としての接合部 84 の前端縁 84F と、に重なっている。なお、腰回り弾性部材 45 は、ウエストバンド 80 の基端縁の少なくとも一部と重なっていればよく、好適には、ウエストバンド 80 の基端縁の全域と重なってよい。装着時にファスニングテープ 90 を引っ張った際に、腰回り弾性部材 45 を介してウエストバンド 80 の基端縁を連動して引っ張ることができる。ウエストバンド 80 の基端縁

が引っ張られることによってウエストバンド８０の起立部がより立ち上がり易くなり、ウエストバンド８０によるポケットをより形成し易くなる。

[0080] 腰回り弾性部材４５は、一方の離間領域Ｒ１５と他方の離間領域Ｒ１５を跨がって配置されてよい。１枚の腰回り弾性部材４５によって一方の離間領域Ｒ１５と他方の離間領域Ｒ１５の両方を補強できる。また、左右のファスニングテープ９０間の領域に、幅方向Ｗに連続する腰回り弾性部材４５が配置され、左右のファスニングテープ９０の連動性を高めることができる。よって、後胴回り域Ｓ２がより身体にフィットし、身体とおむつの隙間が生じることを抑制できる。

[0081] ウエストバンド８０は、防漏ギャザー６０の収縮部６３と厚さ方向Ｔにおいて重ならない領域に配置されてよい。収縮部６３の収縮に起因して腰回り弾性部材４５がたくれることを抑制でき、腰回り弾性部材４５によって離間領域Ｒ１５の変形を抑制する効果をより得やすい。

[0082] ウエストバンド８０の幅方向Ｗの引張荷重は、腰回り弾性部材４５の幅方向Ｗの引張荷重よりも低くてよい。装着時に幅方向Ｗの外側に引っ張られた際に、ウエストバンド８０が先に伸長し、次いで、腰回り弾性部材４５が伸長する。ウエストバンド８０が伸長し易く、より身体側に起立しやすい。よって、ウエストバンド８０が身体によりフィットし、後漏れをより抑制できる。

[0083] 脚回り弾性部材４２の前後方向Ｌの引張荷重は、腰回り弾性部材４５の幅方向Ｗの引張荷重よりも低くてよい。テープ型のおむつを装着する際は、後胴回り域Ｓ２に着用者の背中を載せた状態で、着用者の両足の間に股下域を当てつつ前胴回り域を引っ張って、前胴回り域によって腹部を覆う。装着時におむつを引っ張った際に、脚回り弾性部材４２が先に伸長し、次いで、腰回り弾性部材４５が伸長する。脚回り弾性部材４２が伸長し易く、着用者の脚回りに対してよりフィットし易い。脚回り弾性部材４２を身体にフィットさせ、横漏れを抑制できる。

[0084] 脚回り弾性部材４２の前後方向Ｌの引張荷重は、ウエストバンド８０の幅

方向Wの引張荷重よりも低くてよい。装着時に脚回り弾性部材42が伸長し易く、着用者の脚回りに対してよりフィットし、横漏れを抑制できる。また、ウエストバンド80は、比較的引張荷重が高く、伸長し難い。よって、ウエストバンド80は、脚回り弾性部材よりも伸長の程度が低くなり、その前後方向Lの位置がずれ難い。よって、脚回り弾性部材42の伸長時にウエストバンド80が股下側にずれることを抑制し、ウエストバンド80の前後方向の位置を維持しつつ、脚回り弾性部材42を脚回りにフィットできる。よって、横漏れ及び後漏れの両方を抑制できる。

[0085] ウエストバンド80の幅方向Wの引張荷重、腰回り弾性部材45の幅方向Wの引張荷重及び脚回り弾性部材42の前後方向Lの引張荷重は、以下のように測定できる。使い捨ておむつコールドスプレーを用いて分解し、ウエストバンド80と、腰回り弾性部材45と、脚回り弾性部材42と、を取り出し、試料を作成する。引張試験機（例えば、オリエンテック社製の「RTA-100」等）のチャック間に固定する。サンプルの初期状態の長さは、自然状態とする。そして、チャック間に固定したサンプルを、初期状態の長さに対して1.5倍の長さとなるまで伸長させ、そのときの荷重を、1.5倍伸長時の引張荷重とする。

[0086] 使い捨ておむつ10は、伸長状態における第1基端縁と吸収コア31の幅方向Wの距離をSとし、伸長状態における起立部の前後方向の長さをYとすると、 $S \geq Y$ を満たしてよい。図2に示すように、Sは、伸長状態におけるサイド接合部87の内側縁87Iと吸収コア31の外側縁31Eとの幅方向Wの距離である。図4に示すように、Yは、伸長状態における非接合部85の前後方向の長さである。ウエストバンド80の起立部となる非接合部85は、接合部84の前端縁84F及びサイド接合部87の内側縁87Iに対して起立可能に構成されており、排泄物を収容する収容空間を形成する。このとき、サイド接合部87と吸収コア31の幅方向Wの距離Sが非接合部85の前後方向Lの長さY以上であるため、吸収コア31の外側縁31Eに対して立ち上がる収容空間ASの高さが接合部84に対して立ち上がる収容空間

A Sの高さ以上になるようにポケットを形成することが可能となる。よって、收容空間の外側縁が吸収コア31の剛性によって立ち上がり難くならず、收容空間の全体が立ち上がり易くなり、收容空間を確保し易くなる。ウエストバンド80によるポケットの收容空間を確保し、後漏れの発生を抑制することができる。

[0087] 使い捨ておむつ10は、伸長状態における吸収コア31の後端縁と第2基端縁との前後方向の距離をUとすると、 $S \leq Y + U$ を満たしてよい。図4に示すように、Uは、伸長状態における吸収コア31の後端縁31Rと接合部84の前端縁84Fとの前後方向Lの距離である。接合部84の前端縁84Fが吸収コア31の後端縁31Rよりも後側に位置するため、接合部84の前端縁84Fが吸収コア31の後端縁31Rに対して更に着用者側に立ち上がる可能性がある。このとき、收容空間の立ち上がりの高さは、 $Y + U$ となる。Sによる收容空間の高さが、 $Y + U$ による收容空間の立ち上がりの高さ以下であることにより、 $Y + U$ による收容空間の立ち上がりの高さを抑えることができる。吸収コア31と接合部84の間の領域は、ウエストバンド80の起立支点と吸収コア31の間に位置し、前後方向の両側と比較して剛性が低く、変形し易い。 $S \leq Y + U$ を満たすことにより、 $Y + U$ による收容空間の立ち上がりの高さが高すぎることに起因して吸収コア31と接合部84の間の領域が変形することを抑制し、ポケットの收容空間を確保し易い。

[0088] 使い捨ておむつ10は、非接合部85の前端縁85Fが吸収コア31の後端縁31Rよりも前側に位置し、伸長状態における吸収コア31の後端縁31Rと起立部の前端縁の前後方向の距離をVとすると、 $V \geq U$ を満たしてよい。図4に示すように、Vは、伸長状態における吸収コア31の後端縁31Rと非接合部85の前端縁85Fとの前後方向Lの距離である。平面視においてウエストバンドと吸収コアが重なる形態にあっては、伸長状態における吸収コア31の後端縁31Rと非接合部85の前端縁85Fとの前後方向Lの距離Vは、起立部において吸収コア31が重なる領域の前後方向の長さとなる。起立部において吸収コア31が重なる領域の前後方向の長さ（V）は

、起立部において吸収コア 31 が重ならない領域の前後方向の長さ (U) 以上である。起立部において吸収コアが重なる領域では、吸収コアが重ならない領域と比較して、剛性が高い吸収コアが非肌対向面側に位置しており、着用者側により起立しやすい。 $V \geq U$ を満たすことにより、起立部がより立ち上がり易くなる。

[0089] また、変形例において、使い捨ておむつ 10 は、非接合部 85 の前端縁 85 F が吸収コア 31 の後端縁 31 R よりも前側に位置し、 $U > V$ を満たしてよい。起立部において吸収コア 31 が重ならない領域の前後方向 L の長さ (U) は、起立部において吸収コア 31 が重なる領域の前後方向 L の長さ (V) よりも長い。すなわち、吸収コア 31 の後端縁 31 R よりも後側に配置される起立部の前後方向 L の長さは、吸収コアの後端縁よりも前側に配置される起立部の前後方向の長さよりも長い。よって、吸収コア 31 の後端縁 31 R よりも後側にウエストバンドのポケットを大きく形成できる。使用者は、ウエストバンド 80 のポケットが吸収コアよりも後側に大きく配置されることを把握でき、後漏れに対する安心感を得ることができる。

[0090] 伸長状態における吸収コア 31 の後端縁 31 R と第 2 基端縁との間の領域 (図 4 に示す U の領域) には、補強シートが設けられてよい。本実施形態では、補強シートとしての腰回り弾性部材 45 が配置されている。吸収コア 31 の後端縁 31 R と接合部 84 の前端縁 84 F (第 2 基端縁) との間の領域の剛性を補強シートによって高め、起立部において吸収コアが重なる領域 (図 4 に示す V の領域) との剛性差を少なくできる。よって、起立部全体が立ち上がり易くなる。

[0091] また、非接合部 85 の前端縁 85 F が吸収コア 31 の後端縁 31 R よりも後側に位置する形態にあっては、U (伸長状態における吸収コア 31 の後端縁 31 R と接合部 84 の前端縁 84 F との前後方向 L の距離) は、Y (伸長状態における起立部の前後方向の長さ) + V (伸長状態における吸収コア 31 の後端縁 31 R と起立部の前端縁の前後方向の距離) となる。当該形態にあっては、ウエストバンドのポケット全体が吸収コアよりも後側に配置され

、使用者は、後漏れに対する安心感をより得ることができる。

[0092] 非接合部 8 5 の前端縁 8 5 F が吸収コア 3 1 の後端縁 3 1 R よりも後側に位置する形態においても、伸長状態における吸収コア 3 1 の後端縁 3 1 R と第 2 基端縁との間の領域には、補強シートが設けられてよい。ウエストバンドよりも非肌面側の剛性を高め、ウエストバンドの立ち上がりを安定させることができる。

[0093] 腰回り弾性部材 4 5 は、吸収コア 3 1 の後端縁 3 1 R と接合部 8 4 の前端縁 8 4 F（第 2 基端縁）との間の領域の少なくとも一部に配置されていればよく、好適には、吸収コア 3 1 の後端縁 3 1 R と接合部 8 4 の前端縁 8 4 F（第 2 基端縁）との間の前後方向の全域に配置されてよい。また、腰回り弾性部材 4 5 は、幅方向 Q におけるウエストバンド 8 0 の全域に配置されてよい。幅方向における前記ウエストバンドの全域に亘って補強シートによって剛性を高め、ウエストバンドの幅方向の全域に亘って起立部が立ち上がり易くなる。

[0094] 使い捨ておむつ 1 0 は、接合部 8 4 の前後方向の長さを X とすると、 $U \leq X$ を満たしてよい。使い捨ておむつを寝た状態の着用者に装着する際は、後胴回り域 S 2 を着用者の身体と寝具等の間に差し込むことがある。このとき、接合部 8 4 の前後方向の長さが長いことにより、接合部 8 4 の剛性が高くなり、起立部の起立支点となる接合部 8 4 の前端縁 8 4 F のたぐれを抑制できる。また、仮に接合部 8 4 の前端縁 8 4 F がたぐれた場合であっても、接合部 8 4 の前後方向の長さが長いため、起立部の起立支点を確保し易い。よって、起立部の起点支点を維持し易く、ウエストバンド 8 0 によるポケットの収容空間をより確保し易い。また、補強シートとしての腰回り弾性部材 4 5 は、前後方向において起立部の起立支点となる接合部 8 4 の前端縁 8 4 F を跨がって配置されてよい。起立部の起立支点となる接合部 8 4 の前端縁 8 4 F のたぐれを抑制できる。

[0095] 折り返し部 8 6 の前後方向 L の長さは、伸長状態において、非接合部 8 5 の前後方向 L の長さよりも長くてよい。身体に接する折り返し部 8 6 の前後

方向の長さが、ポケットの収容空間を構成する非接合部 85 の長さよりも長い。ウエストバンド 80 が身体に接する面積を広く確保し、ウエストバンド 80 の形状の安定性が向上し、ウエストバンド 80 と身体との隙間が生じることを抑制できる。また、折り返し部 86 の前後方向の長さを長くすることにより、折り返し部 86 の収縮力を高くしても、単位長さ当たりの収縮力を抑えることができる。よって、折り返し部 86 の着圧を抑え、装着感の悪化を抑制しつつウエストバンド 80 の密着性を確保できる。

[0096] 折り返し部 86 の後端縁 86 R は、伸長状態において、係止配置領域 R 13 よりも後側に位置してよい。係止配置領域 R 13 は、着用された状態で身体に密着し易い。当該身体に密着する係止配置領域 R 13 よりもウエスト開口 66 側に折り返し部 86 が配置される。使用者は、ポケットがウエスト開口 66 の近くに配置されることを把握でき、後漏れに対する安心感を得ることができる。

[0097] ウエストバンド 80 のサイド接合部 87 の内側縁 87 I は、防漏ギャザー 60 の防漏基端縁 64 よりも幅方向 W の外側に位置してよい。サイド接合部 87 の内側縁 87 I は、起立部の収縮によって幅方向 W の内側に向かう力を受けやすい。サイド接合部 87 の内側縁 87 I が防漏ギャザー 60 の防漏基端縁 64 よりも幅方向 W の外側に位置するため、ウエストバンド 80 の収縮によって防漏基端縁 64 が幅方向 W の内側に移動することを抑制できる。一対の防漏ギャザーによって挟む空間を広く設けることができ、横もれを抑制できる。

[0098] 折り返し部 86 の収縮力は、非接合部 85 の収縮力よりも高くてもよい。折り返し部 86 の伸縮応力が比較的高いため、ウエストバンド 80 の身体に対する密着性を確保できる。また、非接合部 85 が設けられた領域の応力が比較的低いため、非接合部 85 の応力が高いことによってポケットが身体から浮き上がりすぎる不具合を抑制し、身体とポケットの隙間が発生することを抑制できる。

[0099] 接合部 84 の収縮力は、起立部を構成する非接合部 85 の収縮力よりも低

くてよい。接合部 84 の収縮力が低いため、接合部 84 が非接合部 85 よりも身体に密着し難い。接合部が身体に密着することによって、接合部 84 と重ならない起立部が相対的に身体から離れる不具合を抑制できる。よって、起立部の身体に対する密着性を確保し易い。また、図 6 に示すように、折り返し部 86 も非接合部 85 と共に着用者側に立ち上がる。このとき、接合部 84 と重ならない領域の折り返し部 86 は、接合部 84 と共に身体に密着せず、折り返し部 86 の起立性を維持でき、ポケットの収容空間を確保できる。また、接合部 84 と重なる領域の折り返し部 86 においては、接合部 84 と共に身体に密着し易く、身体に対する密着性を確保し易い。

[0100] 折り返し部 86 の収縮力、接合部 84 の収縮力及び非接合部 85 の収縮力の測定には、(株)島津製作所製のオートグラフ型引張試験機(例えば、AG-1KN1)を用いることができる。まず、ウエストバンド 80 の収縮作用による皺がなくなる程度にまで使い捨ておむつを伸長させた状態で、折り返し部 86 の幅方向 W の寸法、接合部の 84 の幅方向 W の寸法及び非接合部 85 の幅方向 W の寸法を予め測定(初期寸法)した後に、ウエストバンド 80 を切断し、折り返し部 86、接合部 84 及び非接合部 85 を切り出して、試料とした。

[0101] 次に、各試料の一方端を固定チャック、他方端を可動チャックに挟み、300mm/min の速度で初期寸法の約 90% の大きさまで伸長させた後に反転させて、初期寸法の約 75% の大きさまで収縮させたときの引張荷重(N)を求めて、単位幅(mm)当たりの応力値(N/mm)に換算して収縮力とした。

[0102] また、変形例において、折り返し部 86 の後端縁 86R は、伸長状態において、接合部 84 の後端縁 84R よりも前側に位置してよい。折り返し部 86 の後端縁 86R が接合部 84 の後端縁 84R よりも前側に位置することにより、製造時に折り返し部 86 がずれた場合であっても、意図せずに折り返し部 86 が切断されることを抑制できる。意図せずに折り返し部 86 が切断されることによって、ウエストバンド 80 の切断片が発生することを抑制で

きる。

[0103] 他の変形例において、ウエストバンド80は、ファスニングテープ90と厚さ方向Tにおいて重なっていてもよい。装着時にファスニングテープ90を引っ張った際に、ウエストバンド80を連動して引っ張ることができる。よって、ウエストバンド80がより立ち上がり易くなり、ウエストバンド80によるポケットをより形成し易くなる。

[0104] 次いで、図7に基づいて第2実施形態に係る使い捨ておむつ10Xについて説明する。なお、第2実施形態に係る使い捨ておむつ10Xの説明において、上述の第1実施形態と同様の構成については、同符号を用いて説明を省略する。図7は、第2実施形態に係る使い捨ておむつの模式断面図である。図7(a)は、図1に示す3A-3A線を基準とした使い捨ておむつ10Xの断面図であり、図7(b)は、図1に示す4A-4A線を基準とした使い捨ておむつ10Xの断面図である。

[0105] 図7(b)に示すように、第2実施形態に係る使い捨ておむつ10Xの裏面シート23Xの後端縁23XRは、ウエストバンド80Xの接合部84Xの前端縁84XFよりも後側に位置してよく、裏面シート23Xの少なくとも一部は、接合部84Xと厚さ方向Tに重なってよい。すなわち、使い捨ておむつの平面視において接合部84Xの少なくとも一部と裏面シート23Xの少なくとも一部は、重なっている。ウエストバンド80Xの接合部84Xの前端縁84XFは、ウエストバンド80Xの收容空間ASの後端縁に対応する。裏面シート23Xは、前胴回り域S1から股下域S3を通して後胴回り域S2まで連続しており、使い捨ておむつ10Xの非肌対向面側T2への体液の漏れを抑制している。裏面シート23Xがウエストバンド80Xの接合部84Xに重なっていることにより、ウエストバンド80Xの收容空間ASから使い捨ておむつ10Xの非肌面側への体液の漏れを抑制することができる。また、接合部84Xが設けられた領域の剛性を裏面シート23Xによって高めることができ、ウエストバンド80Xの起立部が接合部84Xに対してより立ち上がり易くなり、ウエストバンド80Xによるポケットをより

形成し易くなる。

[0106] 裏面シート23Xと接合部84Xとが重なる領域の前後方向Lの長さは、接合部84Xの前後方向Lの長さに対する50%以上であってよい。ウエストバンド80Xの收容空間ASから接合部84Xに体液が滲み出してしまった場合であっても、使い捨ておむつ10Xの非肌対向面側T2への体液の漏れを抑制し易い。より好適には、裏面シート23Xと接合部84Xとが重なる領域は、接合部84Xの前後方向L全域に設けられてよい。使い捨ておむつ10Xの非肌対向面側T2への体液の漏れをより抑制できる。なお、第2実施形態の裏面シート23Xの後端縁23XRは、使い捨ておむつ10Xの後端縁よりも前側に配置されているが、変形例において、使い捨ておむつ10Xの後端縁に一致していてもよい。

[0107] 図7(a)に示すように、裏面シート23Xの外側縁23XEは、ウエストバンドの第2接合部88の内側縁88XIよりも幅方向Wの外側に位置してよく、裏面シート23Xの少なくとも一部は、第2接合部88Xと厚さ方向Tに重なってよい。ウエストバンド80Xの第2接合部88Xの内側縁88XIは、ウエストバンドの收容空間ASの外側縁に対応する。裏面シート23Xが第2接合部88Xに重なっていることにより、ウエストバンド80Xの收容空間ASから使い捨ておむつの非肌対向面側T2への体液の漏れを抑制することができる。また、第2接合部88Xが設けられた領域の剛性を裏面シート23Xによって高めることができ、ウエストバンド80Xの起立部が第2接合部88Xに対してより立ち上がり易くなり、ウエストバンド80Xによるポケットをより形成し易くなる。

[0108] 裏面シート23Xと第2接合部88Xとが重なる領域の幅方向Wの長さは、第2接合部88Xの幅方向Wの長さに対する50%以上であってよい。ウエストバンド80Xの收容空間ASから第2接合部88Xに体液が滲み出してしまった場合であっても、使い捨ておむつの非肌対向面側T2への体液の漏れを抑制し易い。より好適には、裏面シート23Xと第2接合部88Xとが重なる領域は、第2接合部88Xの幅方向LW全域に設けられてよい。使

い捨ておむつの非肌対向面側 T 2 への体液の漏れをより抑制できる。また、裏面シート 2 3 X の外側縁 2 3 X E は、第 2 接合部 8 8 の外側縁 8 8 X E よりも幅方向 W の内側に位置してもよい。当該構成によっても、裏面シート 2 3 X の少なくとも一部が第 2 接合部 8 8 X と厚さ方向 T に重なっていることにより、体液の漏れを抑制できる。

[0109] 裏面シート 2 3 X は、厚さ方向 T において、腰回り弾性部材 4 5 と重なり、ウエスト領域 R 1 4 に配置されてよい。腰回り弾性部材 4 5 と裏面シート 2 3 の両方によって、ウエスト領域 R 1 4 の剛性を高め、後漏れを抑制することができる。

[0110] 以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0111] なお、2018年6月29日に出願された日本国特許出願第2018-125576号の全内容が、参照により、本明細書に組み込まれる。

産業上の利用可能性

[0112] 本発明によれば、ウエストバンドによるポケットを適切に形成でき、後漏れの発生を抑制できる使い捨ておむつを提供できる。

符号の説明

[0113] 1 0、1 0 X : 使い捨ておむつ
1 0 F : 使い捨ておむつの前端縁
1 0 R : 使い捨ておむつの後端縁
2 0 : 肌面側シート
2 1 : 表面シート
2 2 : サイドシート
2 3 : 裏面シート

- 2 4 : 外装シート
- 2 5 : 非肌面側シート
- 3 1 : 吸収コア
- 3 1 R : 吸収コアの後端縁
- 4 2 : 脚回り弾性部材
- 4 5 : 腰回り弾性部材（補強シート）
- 4 5 F : 腰回り弾性部材の前端縁
- 4 5 R : 腰回り弾性部材の後端縁
- 6 0 : 防漏ギャザー
- 6 1 : 防漏弾性部材
- 6 5 : 脚回り開口部
- 6 6 : ウエスト開口
- 8 0、8 0 X : ウエストバンド
- 8 0 F : ウエストバンドの前端縁
- 8 0 R : ウエストバンドの後端縁
- 8 1 : シート層
- 8 1 1 : 第 1 不織布層
- 8 1 2 : 第 2 不織布層
- 8 1 3 : フィルム層
- 8 2 : バンド弾性部材
- 8 3 : 対向部
- 8 3 F : 対向部の前端縁
- 8 3 R : 対向部の後端縁
- 8 4 : 接合部
- 8 4 F : 接合部の前端縁（第 2 基端縁）
- 8 4 R : 接合部の後端縁
- 8 5 : 非接合部（起立部）
- 8 5 F : 非接合部の前端縁

8 5 R	: 非接合部の後端縁
8 6	: 折り返し部
8 6 R	: 折り返し部の後端縁
8 7	: サイド接合部
8 7 I	: サイド接合部の内側縁（第 1 基端縁）
9 0	: ファスニングテープ
9 0 F	: ファスニングテープの前端縁
9 0 R	: ファスニングテープの後端縁
9 2	: ベース部
9 3	: 係止部
9 3 F	: 係止部の前端縁
9 3 R	: 係止部の後端縁
9 5	: ターゲット部
F L	: 折り目
R 1 1	: テープ配置領域
R 1 2	: ウエスト開口領域
R 1 2 C L	: ウエスト開口領域の前後方向の中心
R 1 3	: 係止配置領域
R 1 4	: ウエスト領域
R 1 4 C L	: ウエスト領域の前後方向の中心
R 1 5	: 離間領域
A S	: 収容空間
S 1	: 前胴回り域
S 2	: 後胴回り域
S 3	: 股下域
T	: 厚さ方向
T 1	: 肌対向面側
T 2	: 非肌対向面側

L : 前後方向

W : 幅方向

請求の範囲

- [請求項1] 互いに直交する前後方向及び幅方向と、
前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、
吸収コアと、
前記吸収コアよりも肌対向面側に位置する肌面側シートと、
前記後胴回り域において前記肌面側シートの肌対向面側に配置されたウエストバンドと、
前記後胴回り域において配置されたファスニングテープと、を有する使い捨ておむつであって、
前記ウエストバンドにおいて最も前記肌面側シート側に位置する対向部には、前記肌面側シートに接合された接合領域と、前記接合領域から前側に延出し、前記肌面側シートに接合されていない非接合領域と、が設けられており、
前記ウエストバンドの前記非接合領域と前記肌面側シートとによって挟まれた空間によって、前側に向かって開口するポケットを形成しており、
前記ウエストバンドの後端縁は、前記ファスニングテープの係止部から前記幅方向に延びる係止配置領域よりも後側に位置するウエスト領域において、前記ウエスト領域の前後方向の中心よりも後側に配置されている、使い捨ておむつ。
- [請求項2] 前記ウエストバンドの後端縁は、前記ファスニングテープから前記幅方向に延びるテープ配置領域よりも後側に位置するウエスト開口領域において、前記ウエスト開口領域の前後方向の中心よりも後側に配置されている、請求項1に記載の使い捨ておむつ。
- [請求項3] 前記ウエストバンドは、前記非接合領域の前端縁において幅方向に延びる折り目を基点に前記肌面側シートから離れる側に折り畳まれた折り返し部を有する、請求項1又は請求項2に記載の使い捨ておむつ

。

[請求項4] 前記非接合領域は、前記接合領域の前端縁から前記折り目まで設けられており、

前記折り返し部の前記前後方向の長さは、前記非接合領域の前後方向の長さよりも長い、請求項3に記載の使い捨ておむつ。

[請求項5] 前記折り返し部の後端縁は、前記係止配置領域よりも後側に位置する、請求項3又は請求項4に記載の使い捨ておむつ。

[請求項6] 前記折り返し部の後端縁は、前記接合領域の後端縁よりも前側に位置する、請求項3から請求項5のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項7] 前記折り返し部の収縮力は、前記非接合領域の収縮力よりも高い、請求項3から請求項6のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項8] 前記非接合領域の後端縁は、前記係止配置領域の前後方向の中心よりも後側に位置する、請求項1から請求項7のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項9] 前記接合領域の前端縁は、前記係止配置領域の後端縁よりも前側に位置する、請求項1から請求項8のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

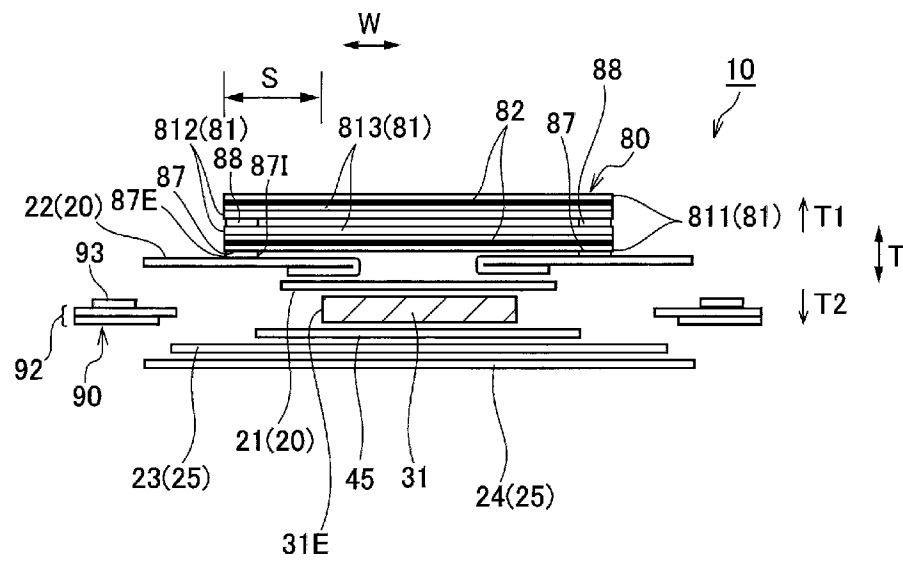
[請求項10] 前記接合領域の後端縁は、前記使い捨ておむつの後端縁に到達している、請求項1から請求項9のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

。

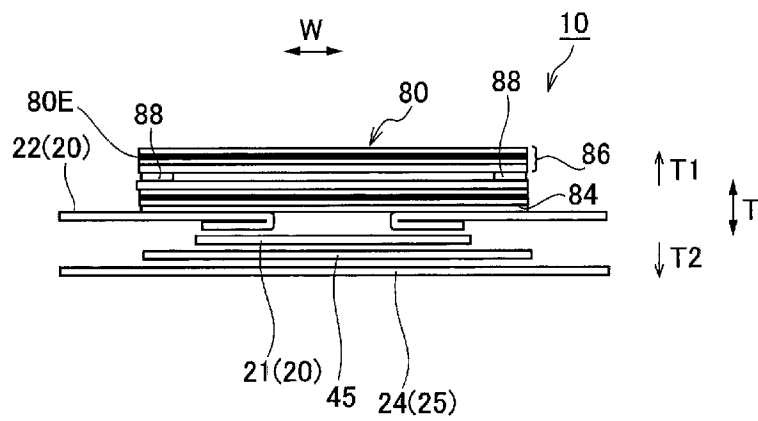
[請求項11] 前記吸収コアよりも肌対向面側に位置する液不透過性の裏面シートを備え、

前記使い捨ておむつの平面視において、前記裏面シートの少なくとも一部は、前記ウエストバンドの接合領域に重なっている、請求項1から請求項10のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

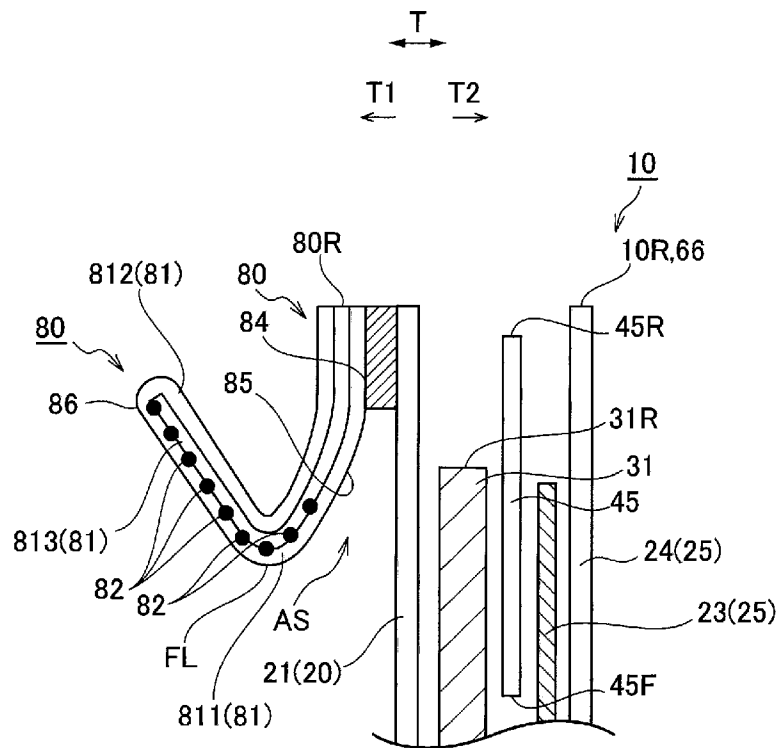
[図2]



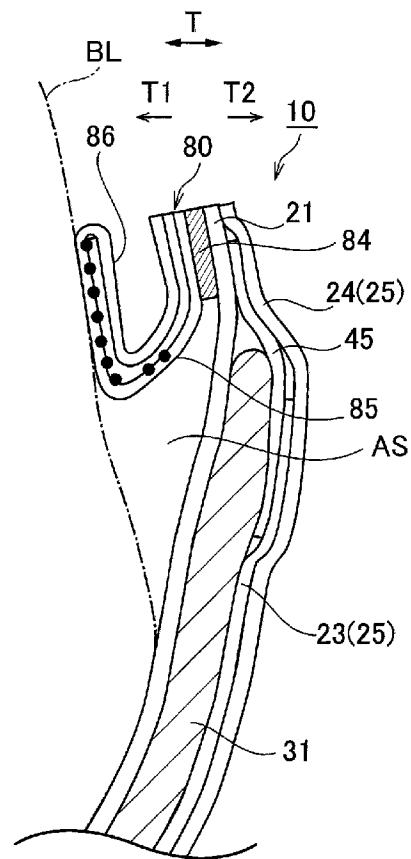
[図3]



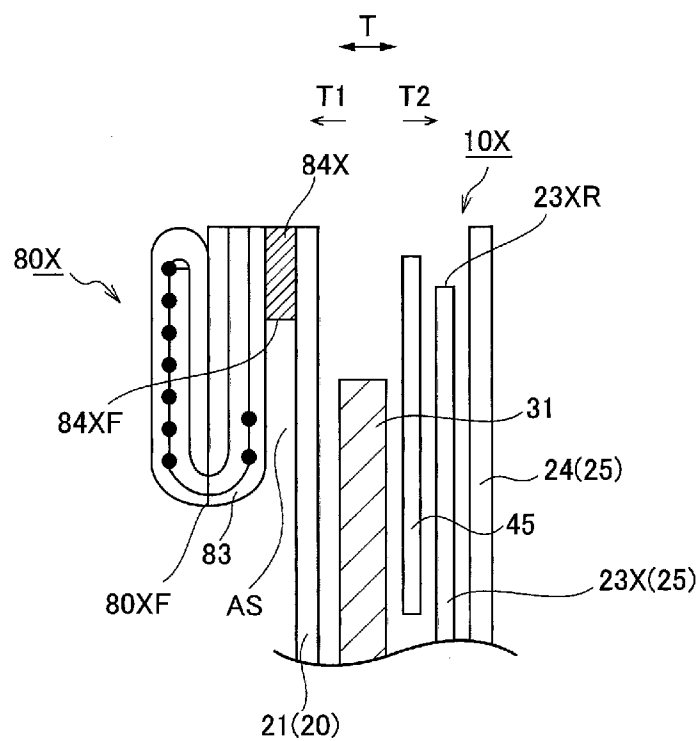
[図5]



[図6]



(a)



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2019/025455

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. A61F13/494 (2006.01) i, A61F13/49 (2006.01) i, A61F13/56 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. A61F13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2019
Registered utility model specifications of Japan	1996-2019
Published registered utility model applications of Japan	1994-2019

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 64-26701 A (UNI-CHARM CORP.) 30 January 1989, page 4, upper left column, line 7 to page 5, upper left column, the bottom line, fig. 1-8 (Family: none)	1-11
X	JP 7-184954 A (DAIO PAPER CORP.) 25 July 1995, paragraphs [0012], [0015]-[0016], fig. 1-4, 7 (Family: none)	1-2, 8-11

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
03 September 2019 (03.09.2019)

Date of mailing of the international search report
17 September 2019 (17.09.2019)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2019/025455

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2016-112341 A (KAO CORP.) 23 June 2016, paragraphs [0013], [0017], [0021], [0033]-[0040], fig. 1-2, 4-5 (Family: none)	1-2, 8-11
X	JP 2000-288013 A (KAO CORP.) 17 October 2000, paragraphs [0006]-[0008], fig. 1-3 & CN 1266671 A	1-2, 8-11
X	JP 7-184955 A (DAIO PAPER CORP.) 25 July 1995, claim 1, paragraphs [0012], [0015], fig. 1-4 (Family: none)	1-2, 8-11
X	JP 2000-513954 A (KIMBERLY-CLARK WORLDWIDE, INC.) 24 October 2000, page 7, line 22 to page 8, line 20, page 9, line 5, fig. 1-3 & WO 1997/015260 A1, page 4, line 10 to page 5, line 3, page 5, lines 18-20, fig. 1-3 & US 5827259 A & CN 1200662 A	1-2, 8-11

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/494(2006.01)i, A61F13/49(2006.01)i, A61F13/56(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/15-13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2019年
日本国実用新案登録公報	1996-2019年
日本国登録実用新案公報	1994-2019年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 64-26701 A（ユニ・チャーム株式会社） 1989.01.30, 第4頁左上欄第7行-第5頁左上欄最終行, 図1-8 (ファミリーなし)	1-11
X	JP 7-184954 A（大王製紙株式会社） 1995.07.25, 段落[0012], [0015]-[0016], 図1-4, 7 (ファミリーなし)	1-2, 8-11

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

03.09.2019

国際調査報告の発送日

17.09.2019

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

北村 龍平

3B

3323

電話番号 03-3581-1101 内線 3320

C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2016-112341 A (花王株式会社) 2016.06.23, 段落[0013], [0017], [0021], [0033]-[0040], 図 1-2, 4-5 (ファミリーなし)	1-2, 8-11
X	JP 2000-288013 A (花王株式会社) 2000.10.17, 段落[0006]-[0008], 図 1-3 & CN 1266671 A	1-2, 8-11
X	JP 7-184955 A (大王製紙株式会社) 1995.07.25, 請求項 1, 段落[0012], [0015], 図 1-4 (ファミリーなし)	1-2, 8-11
X	JP 2000-513954 A (キンバリー クラーク ワールドワイド インコー ポレイテッド) 2000.10.24, 第7頁第22行-第8頁第20行, 第9頁第5行, 図 1-3 & WO 1997/015260 A1, 第4頁第10行-第5頁第3行, 第5頁第18-20 行, 図 1-3 & US 5827259 A & CN 1200662 A	1-2, 8-11